

# Librarian Newsletter

nature publishing group 

December, 2015

## ご挨拶

2015年も残るところあと少しとなりました。皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本年も格別なご高配を賜り、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

さて、以前にご報告いたしました通り、2015年1月15日にネイチャー・パブリッシング・グループとパルグレイブ・マクミランは、シュプリンガー・サイエンス + ビジネスメディアとの合併に合意し、新年より私どもはシュプリンガー・ネイチャー (Springer Nature) として皆さまの法人購読のご提供を開始いたします。

また、出版においても以下の3誌が2016年1月に創刊し、Nature関連誌サイトライセンスに新しく加わります。

nature  
microbiology

[www.nature.com/nmicrobiol](http://www.nature.com/nmicrobiol)

nature  
energy

[www.nature.com/nenergy](http://www.nature.com/nenergy)

nature  
REVIEWS MATERIALS

[www.nature.com/natrevmats](http://www.nature.com/natrevmats)

これら3誌はオンライン版限定で刊行されます。創刊記念特別公開コンテンツの情報は、メールマガジン、および弊社日本語SNSより配信されます。

今後できるだけ多くの弊社刊行物とサービスの情報を、ライブラリアンの皆さまに配信していきたいと存じます。ぜひ、弊社のメールマガジン、TwitterもしくはFacebookも合わせてご登録いただき、情報をご活用下さい。

Nature 関連誌のコンテンツ情報を、日本語で配信するメルマガ  
[www.natureasia.com/secure/ja-jp/register](http://www.natureasia.com/secure/ja-jp/register)



Nature Japan ツイッター  
<https://twitter.com/naturejapan>



Nature Japan フェイスブック  
<https://www.facebook.com/NatureJapan>

来年も、より一層のご支援を賜りますよう、一同心よりお願い申し上げます。

ネイチャー・パブリッシング・グループ 一同

## NPG Librarian Newsletter 2015年12月号 目次:

ご挨拶	Page 1
注目のコンテンツ: Natureダイジェスト ノーベル賞特集	Page 2
Nature Chemistry 著者インタビュー: 「プログラム合成」で、究極の構造多様性を 征服する	Page 3
NPG プレスリリース: 品質研究に関する国際的連携の広がり に独自の洞察を提供する最新のNature Index	Page 4 Page 5
NPG プレスリリース: ネイチャー・パブリッシング・グループと ReadCubeが試験的に行った科学論文の シェアリングの結果を発表	Page 6 Page 7
スポットライト: 日本人類遺伝学会が世界に誇る2誌 HGV&JHG 日本人編集長インタビュー	Page 8

## nature ダイジェスト

2015年12月号  
(Vol. 12 No.12)

人工分子マシン時代の  
到来

### ★12月号の主な記事★

#### 【無料公開記事】

- 中国で出土した歯が示す  
初期人類の旅
- ノーベル賞特集  
ゾウはなぜ、がんになりにくいのか  
雄の線虫で「ミステリー」ニューロン発見  
● 脳スキャンデータで個人を特定できる 他

Nature ダイジェスト法人購読はプリント版、オンライン(PDF)版でのお申し込みが可能です。法人購読についてのお問い合わせは、最寄りの購読代理店、もしくは弊社セールス担当 ([sl\\_sales@nature.com](mailto:sl_sales@nature.com)) までご連絡ください。



## 注目のコンテンツ

### Nature ダイジェスト ノーベル学賞特集 [www.nature.com/ndigest](http://www.nature.com/ndigest)

今月のNature ダイジェストでは、Natureに掲載されたノーベル賞受賞に関連する記事を、日本語でご紹介しています。



#### 顧みられない熱帯病の治療薬を開発した3氏に医学生理学賞\*

寄生虫感染症の治療薬を発見した業績で、3人が共同受賞した。中国人研究者の受賞は初。

[www.nature.com/ndigest/journal/v12/n12/pdf/ndigest.2015.151209.pdf](http://www.nature.com/ndigest/journal/v12/n12/pdf/ndigest.2015.151209.pdf)



#### ニュートリノ振動の発見にノーベル物理学賞\*

ニュートリノの変わり身の謎を解いた2人の物理学者がノーベル物理学賞を受賞した。

[www.nature.com/ndigest/journal/v12/n12/pdf/ndigest.2015.151210.pdf](http://www.nature.com/ndigest/journal/v12/n12/pdf/ndigest.2015.151210.pdf)



#### DNA修復の研究者3氏にノーベル化学賞\*

DNA重要な3つの修復機構である塩基除去修復、ヌクレオチド除去修復、ミスマッチ修復の仕組みを明らかにした3氏が、化学賞を共同受賞した。

[www.nature.com/ndigest/journal/v12/n12/pdf/ndigest.2015.151211.pdf](http://www.nature.com/ndigest/journal/v12/n12/pdf/ndigest.2015.151211.pdf)

\* PDFフルテキストの閲覧にはNatureダイジェストの購読を必要とします。

**Natureダイジェスト2015年12月号は、この記事にも注目！**

**今月の特別公開記事** (閲覧無料)

#### News: 中国で出土した歯が示す、初期人類の旅

中国での「驚くべき」発見によって、ホモ・サピエンスが約10万年前に欧州へよりも先にアジアに到達していたことが明らかになった。

[www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/v12/n12/中国で出土した歯が示す、初期人類の旅/69930](http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/v12/n12/中国で出土した歯が示す、初期人類の旅/69930)

## Nature ダイジェスト 法人購読のご案内

2016年1月から、法人向け印刷版は、洗練された新しい表紙デザインでお届けします。

- ★ サイトライセンス購読のお見積はお近くの購読代理店、もしくは弊社セールス担当 ([sl\\_sales@nature.com](mailto:sl_sales@nature.com)) までご連絡ください。
- ★ 印刷版法人購読 (オンラインPDF版をIDとパスワード式、同時アクセス制限数1で利用可) は、お近くの購読代理店、もしくは日本出版貿易株式会社 洋書部NATURE係([subimp@jptco.co.jp](mailto:subimp@jptco.co.jp))にお申込みください。
  - \* 営利/非営利 本体 (税抜) ¥94,100
  - \* 研究室 本体 (税抜) ¥42,000
- ★ Nature 関連誌のコンテンツ情報を、日本語のメルマガで配信しています。ぜひご登録ください。  
[www.natureasia.com/secure/ja-jp/register](http://www.natureasia.com/secure/ja-jp/register)

## 著者インタビュー

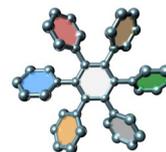
nature  
chemistry

www.nature.com/nchem

## Nature Chemistry 著者インタビュー (閲覧無料)

## 「プログラム合成」で、究極の構造多様性を征服する

www.natureasia.com/ja-jp/nchem/interview/contents/1



今月は化学分野から、注目の研究にたずさわってお二方のインタビューをご紹介します。

ベンゼン環は、有機化学の象徴ともいべき構造であり、天然・人工を問わず多くの化合物の基本単位。このベンゼン環に各種の置換基を導入することで、多様な性質を引き出すことができ、例えば液晶材料・有機EL・医薬品などの高付加価値化合物がここから生み出されます。このため、ベンゼン環上の望みの位置に必要な置換基を導入する手法の開発は、化学の黎明期から変わらぬ重要なテーマです。

このほど名古屋大学の伊丹健一郎教授、山口潤一郎准教授らのグループは、ベンゼン環の6つの炭素に、全て異なる芳香環が導入された「ヘキサアリアルベンゼン」の合成に成功しました。その意義、研究の経緯などを、両博士にお伺いしたインタビューは、**Nature ダイジェスト 2015年11月号**に掲載され、現在、上記URLで無料公開中です。ご所属機関の研究者の方々に、ぜひご紹介ください。



**伊丹 健一郎氏**：名古屋大学大学院理学研究科 教授、名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所\* 拠点長、JST- ERATO伊丹分子ナノカーボンプロジェクト 研究総括

\* **ITbM 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所**

([www.itbm.nagoya-u.ac.jp/index-ja.php](http://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/index-ja.php)) は世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の拠点のひとつで、名古屋大学の強みである合成化学、触媒化学、システム生命科学、動植物科学の調和によって、大きな社会的波及効果をもたらす最先端科学を創成することを目指しています。



**山口 潤一郎氏**：名古屋大学大学院理学研究科 准教授

このインタビューで取り上げられた論文は、2015年1月26日に **Nature Chemistry** オンライン版に AOP (Advanced Online Publication) で掲載され、2015年3月号に収録されました。

### プログラム合成法によって可能になった5または6種の異なる置換基を持つヘキサアリアルベンゼンの合成と性質解明

Synthesis and characterization of hexaarylbenzenes with five or six different substituents enabled by programmed synthesis

Nature Chemistry 7 227–233 (2015) doi:10.1038/nchem.2174 | Published online 26 January 2015

[www.nature.com/nchem/journal/v7/n3/abs/nchem.2174.html](http://www.nature.com/nchem/journal/v7/n3/abs/nchem.2174.html)



2015年3月号

Volume 7 No. 3 (pp181-264)

ISSN (online) 1755-4349

ISSN (print) 1755-4330

[www.nature.com/nchem](http://www.nature.com/nchem)

★ **Nature Chemistry** の無料トライアルと購読に関するお問い合わせは、弊社セールス担当 ([sl\\_sales@nature.com](mailto:sl_sales@nature.com)) までご連絡ください。

## NPG プレスリリース

### 品質研究に関する国際的連携の広がり独自洞察を提供する最新のNature Index

2015年11月11日

研究新興国が、研究先進国との連携によって恩恵を受けていることが Nature Index 2015 Collaborations によって明らかになりました。

Nature 2015年11月12日号の特別企画冊子として発行された Nature Index 2015 Collaborations によって、高インパクトな研究は国際的な連携を通して行われているという、科学的発見の「第4の時代」が到来していることが改めて浮き彫りとなりました。また、Nature Index 2015 Collaborations では、研究新興国にとって、国際的な研究ネットワークへの参加がメリットとなることがはっきりと示されています。

Nature Index ([www.natureindex.com](http://www.natureindex.com)) のデータベースでは、全世界の2万超の研究機関から寄せられる年間約6万件の高品質な科学論文の著者の所属機関を追跡しています。このデータベースは、Springer NatureがDigital Scienceと協力して蓄積しています。

Nature Index 2015 Collaborations は、新しいスタイルで発行する最初のNature Indexです。データをより精査し、世界の科学界における連携の役割に関する疑問に答えています。本レポートでは、詳細な論説、世界の有力研究者へのインタビュー、さらにはインフォグラフィックによって、Nature Indexから集めたデータに命を吹きこんでいます。素晴らしいインフォグラフィックの数々は、データ可視化の専門業者Small Multiplesと科学技術研究支援企業であるDigital Scienceが制作しました。

NatureエグゼクティブエディターのNick Campbellは、次のように話しています。「Nature Index Collaborationsにより、世界の科学界における研究機関や国同士の関係、特に高品質で高インパクトな連携の原動力を、全く新しい視点から理解できると期待しています」。

#### Nature Index 2015 Collaborations からの抜粋

- 英国の研究機関から出版された論文の半数超には、他国の共著者が含まれる。
- 米国から出版された論文で他国の共著者を含むものは約3分の1にとどまる。
- オーストラリアは、欧州諸国（特に英国）との連携が非常に多かったが、今では連携を拡大しつつあり、アジア太平洋地域（特に中国）とも連携を行うようになっている。
- スペインとポルトガルは、ブラジル、チリ、メキシコ、アルゼンチンが主体となって独自構造を持つ新たな地域ネットワークであるラテンアメリカとの連携が、欧州諸国の中で抜きん出ている。
- 中国科学院（CAS）は、weighted fractional count（WFC）で見ると世界首位だが、論文に記載されている所属機関の割合に基づく、国際的な連携はCASよりも北京大学および清華大学の方が多い。
- アフリカのFractional Count（FC）の70%は、アフリカ以外の国との連携に由来している。アフリカ大陸内の連携を進める取り組みが実施されているものの、実際にはほとんど行われていない。
- モロッコ、アルジェリア、チュニジア、リビア、エジプトなどのアラビア語圏諸国は、その各国間で連携しており、この関係は南アフリカとの関係よりも強い。
- フランス [特に同国最大の研究機関であるフランス国立科学研究センター（CNRS）] と旧フランス領諸国間の連携が増える傾向にある。
- 産業界が高品質研究に非常に大きく貢献している。2014年で見ると、営利企業の研究機関はNature Index中の4分の1近くを占めており、約7%の論文に寄与している。

この他にもNature Index 2015 Collaborationsでは、持続的な成長を続ける中国の科学出版において国際的な連携が果たしている役割、産学連携において場所がまだ重要な役割を果たしているかの評価、さらには政府の方針が国際的な学際連携を推進するために最良の方法なのかという疑問などに関する記事を掲載しています。

Nature Indexに関する詳しい情報については[www.natureindex.com](http://www.natureindex.com)をご覧ください。

Nature Index 2015 Collaborations内の可視化されたデータは、申請をいただければ、提供可能です。

詳細は、次の担当者までお問い合わせください。

大場 郁子

ネイチャー・パブリッシング・グループ

E : Ikuko.Oba@nature.com

※ 本プレスリリースの原本は英語であり、日本語は参考翻訳です。

英語版プレスリリース : [www.nature.com/press\\_releases/nature-index-collaborations-2015.html](http://www.nature.com/press_releases/nature-index-collaborations-2015.html)

## Nature Indexのご案内

Nature Indexは、世界トップクラスの研究成果を国・機関別にプロファイリングする新たなデータベースです。国や機関の研究成果に興味のある人であれば、誰でも簡単に利用できます。国や機関の表記ゆれなどは全て標準化されており、中国科学院（CAS）やMax Planckなどの下部機関がある場合においても、統合されたプロフィールを閲覧できます。そのため、Nature Indexでは、個々の研究機関や国の強みを分析し、論文の出版や共同研究の状況を通して世界的な研究の動向を明らかにしていくことで、エビデンスに基づく政策決定や研究助成に貢献することを目指しています。

### Nature Indexでわかること :

- \* Nature Indexに収録されている高品質研究論文の出版状況を把握
- \* 国や研究機関の出版状況・国際共著率を分野ごとに相对比较
- \* 高品質研究論文を多数出版している国や機関を地域や分野別に一覧
- \* 論文ごとの社会的インパクトを把握

★ **Nature Index 2015 Collaborations**は、以下のウェブページで閲覧いただけます。（閲覧無料）

[www.natureindex.com/supplements/nature-index-2015-collaboration/](http://www.natureindex.com/supplements/nature-index-2015-collaboration/)



## NPG プレスリリース

### ネイチャー・パブリッシング・グループとReadCubeが試験的に行った科学論文のシェアリングの結果を発表

2015年12月10日

#### 今後はコンテンツ・シェアリングを恒久化することで、nature.comの論文全体の幅広い公開と共有を実現します

シュプリンガー・ネイチャーの一角を成すネイチャー・パブリッシング・グループ（NPG）は、共同研究を後押しするために試験的に行った12か月間にわたる画期的なコンテンツ・シェアリングの結果を発表しました。試験的に行ったコンテンツ・シェアリングで良好な結果が得られたことから、nature.com の論文全文の、ReadCube のエンハンスドPDF技術を使ったコンテンツ・シェアリングを、恒久的に続けることとなりました。

NPGは2014年12月、12か月間の試験的なコンテンツ・シェアリングを開始し、nature.comの49誌の購読者に対し、興味のある論文全文を、nature.comの共有リンクを通して合法的かつ簡単に、購読権を持たない同僚とシェアできるようにいたしました。これは、出版技術企業であるReadCubeによって可能となりました。また、nature.comに掲載された論文を調査し、報告している世界中の100の報道機関とブログも調査対象としました。報道機関やブロガーは、リンクを通して記事の元となった科学論文の全文（閲覧のみ）へのアクセスを読者に提供することができました。

#### 1年間にわたるコンテンツ・シェアリングから得られた主な結果：

- 最も多く使われた科学論文のシェア方法は、報道機関およびブロガー経由のリファールプログラムであり、これによって読者に対し、ニュースや記事内で科学論文全文の無料のアクセス（閲覧のみ）を提供していました（77%）。
- 多数の国際的な報道機関の注目を集めた *Nature* の論文に関するメディアレポートが、コンテンツ・シェアリングのトラフィックのほとんどを占めていました。2015年に最も人気が高かった論文は、2015年1月に *Nature* に発表された「*A new antibiotic kills pathogens without detectable resistance*（検出可能な耐性を伴わずに病原菌を殺す新たな抗生物質）」でした。
- コンテンツ・シェアリングが多かった報道機関は、順に、BBC、ガーディアン紙、ニューヨークタイムズ紙、Science Magazine、そしてワシントンポスト紙でした。
- 研究者間でのシェアは、論文にアクセス権のある購読者がnature.comの論文へのシェア用リンクを電子メールで送信またはソーシャルメディアなどへ掲載することで行うもので、大半が購読者と非購読者の間で行われており（67%）、残りは主に購読者間でのシェアでした。
- この12か月間で、購読型ジャーナルの法人・個人の売上への影響は見られませんでした。
- 無料の閲覧専用リンクを使った共有は、世界中で行われ、シェアが活発に行われていたのは、米国、英国、日本、ドイツ、中国、カナダ、スペイン、フランス、インド、および韓国の購読者でした。
- 無料の閲覧専用リンクを通じて、世界中の読者からアクセスがありました。アクセスが多かった国は、順に、米国、英国、カナダ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、スペイン、ブラジル、およびオランダでした。

シュプリンガー・ネイチャーのネイチャー・リサーチ・グループのマネージング・ディレクターであるSteven Inchcoombeは、次のように述べています。「私たちの当初の目的は、研究者および社会全体に対して科学的知識の宝箱を開放することでした。従って、この12か月の試験的なコンテンツ・シェアリングで良好な結果が得られたことを本当にうれしく思います。このため、nature.comの論文全文の、ReadCubeのエンハンスドPDF技術を用いたシェアリングを恒久的に続けることにしました。今まで私たちの業界で、このような方針の作成、コンテンツの提供、デジタルプラットフォームの提供を行った企業はありません。」

デジタル・サイエンスの出版社広報ディレクターであるNicko Goncharoffは次のように付け加えています。「私たちは、NPGの斬新な方針とReadCubeの技術によって、購読型ジャーナルの内容を簡単にシェアするための、建設的で持続可能な選択肢を提供することができました。これは研究者が論文と知識を共有しつつ、出版社および著作者がシェアの状況を知るといったニーズを満たすための大きな前進です。」

この取り組みの背後にある技術は、デジタル・サイエンスの1部門であるReadCubeにより開発されました。ReadCubeは、研究者、研究機関、および出版社にとって研究論文の管理のしやすさ、アクセスの容易さ、つながりを向上できるソフトウェアを開発しています。この出版技術は、ワイリー、NPG、カルガー、De Gruyter、ロックフェラー大学出版、その他の多くの出版企業ですでに採用されています。

今回の取り組みは、研究者の提携をサポートし、一般の人々に対して従来利用できなかった科学論文を読む方法を提供するために策定されました。これは、シュプリング・ネイチャーの多くのオープンアクセスおよびオープンリサーチの活動をサポートするものであり、それに置き換わるものではありません。

シュプリング・ネイチャーは、オープンリサーチの分野の先駆者であり続けます。2015年に [nature.com](http://nature.com) に掲載された研究論文の60%以上がオープンアクセスです。NPGの全てのオープンアクセス誌においてCC-BYライセンスを選択する著作者の割合は、2014年には26%でしたが、2015年9月には96%と、劇的に増加しました。

## 2014～2015年に行われた試験的なコンテンツ・シェアリング:

1. [nature.com](http://nature.com)に掲載されている49誌のジャーナルの定期購読者は、科学論文の全文（閲覧のみ）への固有のリンクを、自身にとって最も便利な方法（メールやソーシャルメディアなど）で同僚や共同研究者とシェアできるようになりました。対象となるジャーナルには、世界で被引用数が最も多い科学出版物である *Nature*、さらには*Nature* 関連誌の他、高品質な科学ジャーナル15誌が含まれています。この新たな取り組みは、世界の6,000以上の大学と団体に所属する研究者と学生を対象としており、月間1,000万人を超える[nature.com](http://nature.com)の利用者に向けて提供されます。研究論文のシェアは、個人が非営利目的に利用する場合に限られます。これに加えて今後、アノテーション機能が導入される予定で、コメントやテキストのハイライトなどもシェアできるようになります。
2. 世界100か所の報道機関とブログでは、記事のもとになった[nature.com](http://nature.com)の科学論文全文への共有リンクを読者に提供できます。これにより、記事の読者は数千報にも及ぶ高品質な科学論文を閲覧可能になります。*Nature* には、ヒトゲノム、DNAの構造、クローンヒツジ「ドリー」、レーザーの発明、AIDSウイルスの同定、オゾンホールの発見など、最先端の科学ストーリーが数多く発表されてきました。

### ネイチャー・パブリッシング・グループについて

ネイチャー・パブリッシング・グループ（NPG）は、影響力の大きな科学情報を、プリント版およびオンライン版で提供している出版社です。NPGは、生命科学・物理学・化学・応用科学など多岐にわたる分野で、ジャーナルやオンラインデータベース、その他のサービスを提供しています。科学者のニーズに焦点を当てた *Nature*（1869年創刊）は、世界有数の週刊の国際科学雑誌です。NPGはまた、一連の*Nature* 関連誌と*Nature Reviews*誌、さらには学会主導の出版を含め、非常に優れたアカデミックジャーナルおよびパートナージャーナルを出版しています。オンラインの[nature.com](http://nature.com)には、1カ月当たり800万人を超えるユーザーが訪れ、NPGの論文や *Nature* のニュース記事やコメント記事、そして非常に優れた科学求人サイトである*Naturejobs*などのサービスにアクセスしています。*Scientific American*（1845年創刊）は、NPGの消費者メディアの核を成しており、長年継続して出版されている雑誌としては米国で最も歴史のあるもので、一般メディアの科学出版物として、非常に権威があります。

### シュプリング・ネイチャーについて

シュプリング・ネイチャーは、研究、教育、専門領域において世界をリードする出版社の1つです。高い評価と信頼を得ている多くのブランドから成る革新的な製品やサービスを通して、高品質なコンテンツを提供しています。シュプリング・ネイチャーは、世界最大規模の学術書籍出版社であり、世界で最も影響力のあるジャーナルを多数発行しています。またオープンリサーチにおけるパイオニアでもあります。当社の50か国超に及ぶ従業員数は約13,000人で、売上高は15億ユーロです。シュプリング・ネイチャーは、ネイチャー・パブリッシング・グループ、パルグレイブ・マクミラン、マクミラン・エデュケーション、シュプリング・サイエンス+ビジネスメディアの合併により2015年5月に誕生しました。

### ReadCubeとデジタル・サイエンスについて

ReadCubeは、研究世界へのアクセス性を高め、つながりを強化するためのソフトウェアを開発しています。ReadCubeの無償のデスクトップパソコン用アプリケーション（Windows版とMac版）があれば、どのような分野の研究者も既存の論文ライブラリの整理と管理を簡単にでき、検索機能とユーザーのレコメンドを通じて、新しい文献を発見できます。また、ReadCubeは、科学研究のニーズに応えるマクミラン・サイエンス・アンド・エデュケーション（MSE）のポートフォリオに含まれる技術企業であるデジタル・サイエンスによって支援されています。デジタル・サイエンスは、インテリジェントな知識発見ツールや研究室用のソフトウェアアプリケーション、さらにマネージャーの意思決定を支援するシステムなど、科学を広範囲にわたり支援する技術とデータソリューションを提供しています。

詳細は、次の担当者までお問い合わせください。

大場 郁子, ネイチャー・パブリッシング・グループ (Email : [Ikuko.Oba@nature.com](mailto:Ikuko.Oba@nature.com))

※ 本プレスリリースの原本は英語であり、日本語は参考翻訳です。

英語版プレスリリース : [www.nature.com/press\\_releases/nature-index-collaborations-2015.html](http://www.nature.com/press_releases/nature-index-collaborations-2015.html)

## スポットライト: NPGアカデミックジャーナル 日本人編集長インタビュー

先月号のスポットライトに続き、日本人の編集長が活躍されている、弊社刊行のアカデミックジャーナルをご紹介します。

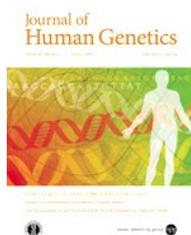
日本人類遺伝学会が世界に誇る2誌の英文ジャーナル、**Journal of Human Genetics (JHG)** と **Human Genome Variation (HGV)**。JHG は、60年の歴史を誇るヒト遺伝学の原著論文誌。HGV は、創刊2年目を迎えた新しいタイプのオープンアクセス誌で、簡易データベースを備え、遺伝子変異のデータレポートに重きを置いています。日本人類遺伝学会がこの2誌を揃えた狙いはどこにあるのか。各誌の編集長、松本直通（まつもと なおみち）教授と徳永勝士（とくながかつし）教授が、新ジャーナル創刊の背景やそれぞれの目指すところを語ります。



### データを活かせ！ 人類遺伝学会の2誌体制 — 編集長に聞く (閲覧無料)

松本 直通 氏、徳永 勝士 氏

<http://www.natureasia.com/ja-jp/jhg/interview/>



#### Journal of Human Genetics

は日本人類遺伝学会の公式英文誌として質の高い原著研究論文、短報、レビュー論文、コメンタリー、投書、Editorial（論説）を掲載し、遺伝医学、ゲノム医学を含むヒト遺伝学のあらゆる側面に関する研究振興に寄与することを目指しています。

Editor-in-Chief: Naomichi Matsumoto  
Yokohama City University, Japan  
ISSN: 1434-5161 / EISSN: 1435-232X

日本語での紹介サイト

[www.natureasia.com/ja-jp/jhg](http://www.natureasia.com/ja-jp/jhg)



#### Human Genome Variation

は、人類遺伝学のさまざまな分野における研究を出版するオープンアクセスジャーナルです。原著論文 (Article)、総説論文 (Review Articles) とともに、データレポート (Data Report) を出版します。データレポートは新たに見出した疾患原因遺伝子変異を対象とし、基礎遺伝学研

究者、臨床遺伝学研究者のみならず、医療に携わる医師や遺伝カウンセラーにとっても有用な情報を提供します。

Editor-in-Chief: Katsushi Tokunaga,  
University of Tokyo, Japan  
ISSN: 1434-5161 / EISSN: 1435-232X

日本語での紹介サイト

[www.natureasia.com/ja-jp/hgv/](http://www.natureasia.com/ja-jp/hgv/)

### 【編集後記】

ライブラリアンニュースレターをご愛読いただき、誠にありがとうございます。2015年2月より刊行頻度を月刊とし、日本人著者・編集者インタビュー、Nature関連誌およびNPGオープンアクセス誌創刊のご案内、そして弊社のオープンサイエンスにおける活動やサービスをご紹介します。2016年は「シュプリング・ネイチャー」のライブラリアン ニュースレターとして装丁を刷新し、引き続き弊社の研究者・著者向け情報の中より、図書館に從事される皆様のお役にたてるコンテンツを抜粋して、ご紹介させていただきます。ご所属機関の図書館エンドユーザーの皆様にも、当ニュースレターの情報をご伝達いただければ幸いです。来年も何卒よろしくお願い申し上げます。

(担当: 小林 真紀)

Librarian Newsletter 12月号 (2015年12月18日発行)

ネイチャー・パブリッシング・グループ

マーケティング (編集担当: 小林 真紀)

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-37 千代田ビル

TEL: +81 (0)3 3267 8757

FAX: +81 (0)3 3267 8752

Email: [sl\\_sales@nature.com](mailto:sl_sales@nature.com)

[www.natureasia.com/ja-jp/libraries/](http://www.natureasia.com/ja-jp/libraries/)

nature publishing group 